

交通事業者・関係団体へのヒアリング（意向把握）結果概要について

1. 実施概要・目的

公共交通事業者や関係団体等における課題や実態、将来の見通しや意向等についてヒアリングし、様々な移動に関する利用特性や運行上の課題、移動の課題等を把握することで、地域の実態に基づいた地域公共交通計画を策定することを目的とする。

2. 実施時期

2024年11月

3. 結果概要

公共交通事業者のヒアリング結果	
鉄道事業者	<ul style="list-style-type: none"> 輸送人員は、従前の状況には戻らないと考えている。 若者が会社を辞めてしまう傾向が強くなっている。 松戸市ならではの新たな取組（MaaS^{※1}など）を積極的に導入していけるとよい。 パーク&ライド^{※2}は、松戸市には不向きである。駅周辺の使い方として、広域の駐車場よりもにぎわいづくりの方が大切である。 修繕費の悩みが尽きない。更新時期などが来ると、サービス水準が低下していくことが懸念される。 「鉄道は当たり前にあるもの」という前提が徐々に変わってくることも想定しなければならない。
バス事業者	<ul style="list-style-type: none"> 全体利用者数としてはコロナ前比較で概ね90%程度である。 災害時は、鉄道会社と連携し、電車が運転見合わせ時に振替輸送を行っている。 グリーンスローモビリティと路線バスの役割分担は考えなければならない。 運転手不足の対策として、説明会など、市と連携して戦略的に進めていきたい。 地域と鉄道やバスなどが連携したイベントをできるとよい。
タクシー事業者	<ul style="list-style-type: none"> 災害時は、鉄道会社と連携を取り、電車の運転手の送迎を行っている。 少しずつ女性ドライバーが浸透してきており、女性ドライバーの活躍と職場環境改善が好循環になってきた感触がある。 カーボンニュートラルに向けた取組（電気自動車や燃料電池車の導入）を検討している。 団地や高齢者が多い住宅地などでは、タクシー乗り場（待機所）の設置が必要ではないか。

※1 MaaS…複数の交通手段を最適に組み合わせて、検索・予約・決済を一括で行うサービスのこと。

※2 パーク&ライド…郊外や都心周辺部のバスターミナルやバス停周辺などに駐車場を整備し、マイカーからバスへの乗り継ぎを図るシステムのこと。

関係団体等のヒアリング結果	
歩行環境に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> 歩道が狭く、舗装がガタガタしており、車いすの利用や、ベビーカーや高齢者の歩行器を押して歩くのが大変である。 歩道がない道路も多く、危険を感じて外出をやめてしまう高齢者が一定数いる。
自転車に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> 自転車をよく利用するが、坂が多いので電動自転車でないといけない。 歩行者と自転車の走行環境のすみ分けができていない。 駐輪場の有無を調べる手間を考えると、近所の移動に留まってしまう。もしくは、車で郊外の大型商業施設に行ってしまう。 安全な走行空間がないため、危険を感じる。
公共交通利用に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世帯から公共交通を利用したいという声は聴くが、ベビーカーなどで駅を利用するのが大変という声も多い。 障害者も思い付きでお出かけしたいと思うが、行程の事前調べや利用可能なトイレの確認、交通事業者への事前連絡などが必要で、非常に難しい。 小さい子どもや障害者の公共交通利用に対して、一般の利用者からの理解を得ることができるといい。 高齢者だけでなく、若い世代も利用しやすい環境を作らないと、公共交通の魅力が低下していつてしまう可能性がある。
免許返納に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者は、仲間内で乗り合って移動していることがあり、一人の高齢者が免許を返納することで複数人が移動できなくなるケースがある。
やってみたいこと、交通計画に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代をはじめ、多世代が参加できるイベントをできるといい。 利用促進において、子育て世代の声を拾い上げる機会を設けることができるとうい。 鉄道や路線バスなど幹となる公共交通の存在が重要である。そのうえで、各交通手段の役割分担を明確にする必要があると感じる。 複数の移動手段を組み合わせることができれば、住民は複数の選択肢から自身にあった移動手段を自由に選択できる。
将来の不安	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の減便が不安である。幹線交通が充実していて初めて、グリーンスローモビリティが活用できる。 ハード整備をしっかり行わないと、住民の外出頻度が低下し、地域コミュニティが希薄化してしまう。